

# 令和 6 年度 施策評価表

## 第 1 章『人と人との絆を紡ぐまち』

まちづくりの目標	誰もが安心して暮らせるよう、市民一人ひとりがお互いにいたわり学び合いながら絆を紡ぎ、地域で見守り支え合うまちをめざします。
分野別計画・指針	所沢市地域防災計画、国民保護に関する所沢市計画、所沢市国土強靱化地域計画、所沢市地域づくりガイドライン、第11次所沢市交通安全計画、第5次所沢市障害者支援計画、第8期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、第3次所沢市地域福祉計画、所沢市成年後見制度利用促進基本計画、第2次所沢市教育振興基本計画、所沢市生涯学習推進指針、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、第2次所沢市図書館ビジョン

第1節	地域づくり
関係所属	地域づくり推進課、各まちづくりセンター

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「地域づくり」 地域のつながりの大切さを実感できる	604	26.5%	402	17.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	地域づくりに関する施策の満足度	%	-	61.0	26.5	×	62.5

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-1-1 地域コミュニティの充実	地域づくり支援事業への地域住民の参加人数	人	106,959	115,000	113,856	×	116,000
1-1-2 地域コミュニティの支援	自治会等への加入世帯数	件	97,697	98,300	93,818	×	98,400
1-1-3 市民活動の促進	市民活動支援センターの利用者数	人	3,490	3,640	2,466	×	3,670

節の基本方針への取り組み状況							
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り							
<p>○まちづくりセンターでは、地域づくり協議会への交付金の交付などを通じて、それぞれの地区の特性に応じた主体的な活動の支援を行うとともに、コロナ禍後のコミュニティ事業の再開を支援するなど、地域に信頼される拠点施設としての運営に努めた。</p> <p>○自治会・町内会啓発パンフレットによる加入促進、広報とろざわでの特集記事掲載、市内11地区の活動紹介、集会所の修繕や維持管理の費用助成による活動拠点の整備を行った。また、所沢市自治連合会との共催で加入促進ポスター展を開催し、自治会活動の周知に努めた。</p> <p>○「第44回所沢市民フェスティバル」は、コロナ禍後2回目の開催となり、2日間とも好天に恵まれ約27万人の来場者があり、事故もなく安全に開催することができた。多くの市民が来店者やボランティアとして参加し、まちの活性化に寄与しているものと考えられる。季節的にも屋外のイベントを堪能できる時期でもあり「やはりフェスティバルは楽しい」というような声も聞かれ、過去40年以上開催してきた実績が定着してきたことを実感できる内容であった。</p> <p>○市民活動フェアにおいて、NPO法人やボランティアの他、「地域づくり協議会」及び「自治会・町内会」に関する展示を行った。また、地域づくり協議会やNPO法人の方々には「展示の説明員」としても参加いただき、他団体間の交流を深めていただいた。</p> <p>○地域コミュニティで活動する方々を対象に「地域デザイン交流会(旧情報交換会)」を開催し、グループワークを行い参加者の方同士で地域の課題や取組など情報交換を活発に行い、有意義な交流の機会とすることができた。</p>							
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析							
<p>○地域づくりに関する施策の満足度は、目標値をかなり下回る結果となった。一方で、市民意識調査報告書によると地域活動への協力意向が60%以上の結果も出ている。世代間による地域のつながりに対する考え方や市民要望は、多岐に渡り多様化しているなどから目標値との乖離が顕著になってきているものと考えられる。</p> <p>○地域づくり支援事業への地域住民の参加人数については、コロナ禍で中止又は縮小となっていた事業がだいぶ再開してきているが、コロナ以前に近い数字ではあったものの、一部事業そのものが実施されなくなるなどの要因により、目標値に至るほどの回復ではなかったものとする。</p> <p>○自治会等加入世帯数については、令和2年度から前年比減が続いており、コロナ後は退会世帯の数が増える傾向にあり、コロナ禍で加入促進活動ができなかったことや自治会活動である事業が開催できなかったことなどが要因と考えられる。</p> <p>○市民活動支援センターの利用者数については、コロナ禍以前の自主事業と同レベルに再開してきているが、活動を自粛した団体が依然あることや構成員の高齢化などの理由により活動を縮小した団体があることなどから、利用者数が伸びずに目標に達しなかったと考える。</p>							

<b>今後の方向性</b>			
<p>◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○地域活動の拠点施設であるまちづくりセンターにおいて、施設の安定的な運営を行いながら、コミュニティ活動につながる事業を効果的に実施するとともに、地域課題解決に向けた自発的な取組が図られるよう、引き続き地域づくり協議会の活動を支援していく。</p> <p>○自治会・町内会の活動を機会あるごとに周知し支援するため、「自治会・町内会応援団」や加入促進啓発パンフレットの配布、広報ところざわでの市内11地区の活動紹介、集会施設の修繕や維持管理の費用助成による活動拠点の整備を行っていく。また、所沢市自治連合会と連携し、加入促進ポスター展を共催で開催するなど、今後も自治会活動の周知に努めていく。</p> <p>○市民活動支援センターをはじめ地域で事業を実施する各所管課と連携しながら地域づくりに必要な人材の発掘・育成を推進し、地域と行政が相互に連携する体制を整備する。</p>			
<p>◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○世代ごとに情報の入手方法や地域活動への参加が可能な機会が異なるなど、これまでの仕組みでは市の施策が理解されにくくなっていることが評価指標が未達成となった理由と考えられる。地域づくり協議会などと情報を共有し世代ごとのニーズを反映して、見直しを行いながら施策を進めていく。</p> <p>○地域活動の拠点となるまちづくりセンターやコミュニティセンターの維持管理に努め、各まちづくりセンターやコミュニティセンターとともにコミュニティ活動や地域の情報の共有等を行い、地域活動に関する助言や情報発信を行うほか、市民が自発的に地域課題を認識し解決に取り組めるような工夫を引き続き行っていく。</p> <p>○所沢市自治連合会と連携し各自治会・町内会の活動の周知を行いながら、地域集会施設の助成を引き続き行っていく。</p> <p>○市民活動支援センターを中心に市民活動の促進を図るとともに、「市民フェスティバル」や「市民活動フェア」のような市民活動を紹介する機会を活かし、相互の周知や連携のきっかけとなるように今後とも努めていく。</p>			
<b>SDGsへの貢献</b>			
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	レ 11	住み続けられるまちづくりを
レ 3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	レ 17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.6.3	記入者職氏名	市民部次長 佐藤 尊之

第2節	地域福祉	
関係所属	地域福祉センター、生活福祉課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「地域福祉」 所沢市は地域の課題を地域で解決できる環境にある	416	18.2%	473	20.7%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	所沢市地域福祉計画に掲げた取り組みを測る指標の達成率	%	87	98	87.7	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-2-1	地域福祉のコミュニティづくり	こどもと福祉の未来館利用者数(地域福祉センター利用者数)	人	67,544	78,000	69,576	×	80,000
1-2-2	身近な地域に広がるネットワークづくり	民生委員・児童委員の充足率	%	96.8	100	93.0	×	100
1-2-3	安心・安全に地域で生活できる環境づくり	生活困窮者自立相談支援事業の新規相談者数	人	820	810	1,666	○	810

**節の基本方針への取り組み状況**

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**  
 ○こどもと福祉の未来館については、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う利用制限を全面的に解除し、高齢者や障害者など様々な来館者の利便性や安全性に配慮しつつ運営を行った。  
 ○民生委員・児童委員による地域での見守り活動を支援するため、民生委員・児童委員活動支援事業を実施した。  
 ○成年後見制度の利用促進を図るため、令和4年6月に中核機関として位置付けた成年後見センターを中心にして関係機関等による連携を図り、情報共有のための地域連携ネットワーク体制の構築を進めた。  
 ○新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行した後も生活再建に時間を要する世帯は依然として多数存在している。生活困窮者に対しては、その就労や心身の状況、地域社会からの孤立などの様々な状況、又はそれらの複合的な状況に応じて、包括的かつ早期の支援を提供するため、所沢市社会福祉協議会と連携して生活困窮者自立促進支援事業を実施した。また、生活困窮者の状況に応じて生活保護につなげるなど、生活保護制度を適切に実施し、生活困窮世帯の自立を支援した。  
 ○電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい住民税非課税世帯に対し、1世帯あたり3万円、追加で7万円の給付金を支給した。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**  
 ○「所沢市地域福祉計画に掲げた取組を測る指標の達成率」は、計画に掲げる47指標の達成率の平均により算出している。事業への参加者数等を目標値としている複数の指標では、新型コロナウイルス感染症の影響により達成率が著しく減少した後、令和3年度から軒並み増加傾向にあるが、依然としてそれ以前の状態には至っていない。  
 ○こどもと福祉の未来館利用者数については、昨年比653人の増加だが、新型コロナウイルス感染症による新規登録者数の鈍化があり目標達成には至らなかった。  
 ○民生委員・児童委員の充足率については、高齢化が進んでいる地区や自治会加入率が低い地区などで担い手不足が発生している。

**今後の方向性**

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**  
 ○こどもと福祉の未来館については、引き続き適切な施設の維持管理及び運営に取り組み、利用者の増加に繋がるよう関係団体や所管課等と連携を図る。  
 ○新型コロナウイルス感染症により地域の繋がりが希薄化した後、再構築に向けた動きが進む中、第3次地域福祉計画の中間評価をふまえると、行政・企業・地域の活動団体・住民それぞれが主体的に活動し、新たな支援の担い手の育成等を進めていくことが重要となっている。  
 ○成年後見制度については広く市民に周知するとともに、成年後見センターを中心にして地域連携ネットワークの構築に努める。  
 ○今後も各自立促進支援事業を充実させ、生活困窮者に対してはより丁寧に対応して自立支援の強化を図る。また、生活困窮者の状況に応じて生活保護につなげるなど、生活保護制度の適切な実施に努める。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**  
 ○こどもと福祉の未来館利用者数については、利用団体や関係団体、関係所管課等と連携し、共催事業やガレリア展示等を行うことで、利用者の増加を目指していく。  
 ○民生委員・児童委員の協力を得て、広報とろろざわに民生委員の紹介コーナーを年5回掲載し、民生委員の活動を市民に身近に感じていただくことなどを通じて、新たな担い手を確保していく。

SDGsへの貢献			
レ	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
レ	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に
レ	8 働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.10	記入者職氏名	福祉部次長 畑中 武

第3節	障害者福祉
関係所属	障害福祉課、健康管理課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「障害者福祉」 所沢市は障害者が地域の中で暮らしやすいまちだ	384	16.8%	539	23.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	障害福祉サービスの利用率	%	80.5	85	83.4	×	85

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-3-1	差別解消と権利擁護の推進	「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」等の出前講座開催数	回	-	5	14	○	5
1-3-2	社会参加の促進と協働の推進	障害者週間記念事業来場者数	人/日	361	550	319	×	550
1-3-3	自立した生活支援の充実	グループホーム整備数	人分	131	202	404	○	214
1-3-4	雇用・就労の促進	ところざわ就労支援センター登録者の就職者数	人	512	619	764	○	637

**節の基本方針への取り組み状況**

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**  
 ○「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」等の出前講座開催数については、民生委員、福祉施設職員、秋草短期大学の学生等からの要望へ対応したことなどにより、R5年度目標値を超過する実績を達成した。  
 ○「グループホーム整備数」については、昨年度と比較して43名分の整備を行い、令和5年度目標値を超過する実績を達成した。  
 ○「ところざわ就労支援センター登録者の就職者数」については、昨年度と比較して4名就職者数が増えるなど、令和5年度目標値を超過する実績を達成した。  
 ○重篤な精神障害者を対象とした「精神障害者アウトリーチ支援事業」を実施し、精神障害者の地域における生活の支援を行った。また、ピアサポーター養成のつどいを12回開催し、延べ99人の参加があった。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**  
 ○「障害福祉サービスの利用率」については、障害福祉サービスを必要とする方が適切に利用できる状態にあるかを把握するための指標である。数値としては未達であるが、目標値に近い数値であることから、適切な水準に近づいているものと捉えている。  
 ○「障害者週間記念事業来場者数」については、例年通り12月初旬に市民ホールでの作品展(約1週間)とこどもと福祉の未来館でのイベント(1日:ステージ発表、ワークショップ、お菓子の販売会など)を実施した。反響もよく、来場者も目視では例年同様と見積もられたが、来場者数の正確なカウントが難しく目標値は未達となった。

**今後の方向性**

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**  
 ○「差別解消と権利擁護の推進」については、引き続き出前講座や研修等を開催するとともに、ワークショップ等の手段も加えて、障害に対する理解や合理的配慮を市民に広めるための周知啓発を進めていく。  
 ○「自立した生活支援の充実」については、福祉施設の量的確保のみならず、顕在化している質的な課題へのニーズにも対応すべく、自立支援協議会等の場を活用して、施設関係者との課題共有やネットワークの構築を図る場を確保していく。  
 ○「精神障害者アウトリーチ事業」等を実施し、重篤な精神障害者本人やご家族が安定した地域生活を送ることができるよう、きめ細かく丁寧な支援を継続して行う。また、市内障害福祉事業所との連携を強化し、ピアサポート活動の推進に向けた支援の充実に努める。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**  
 ○「社会参加の促進と協働の推進」の主旨は「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の推進や障害理解を広めるために周知啓発を行うものであることから、障害者週間に時期を限定せず、別の時期に行っている作品展等も含めて、通年で効果的な取り組みを推進していく。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		レ 10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		レ 16 平和と公平をすべての人に
レ	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.10	記入者職氏名	福祉部次長 畑中 武 健康推進部保健センター長 中村 まさみ

第4節	高齢者福祉
関係所属	高齢者支援課、介護保険課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「高齢者福祉」 所沢市は高齢者がいきいきと安心して暮らせるまちだ	551	24.1%	828	36.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	地域で活動する元気な高齢者数	人	344,528	351,000	165,134	×	352,000

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-4-1	自立した生活を継続するための取り組みの推進	介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者の把握数	人	4,279	6,000	5,231	×	6,300
1-4-2	住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるための取り組みの推進	認知症サポーター養成者数	人	18,349	33,000	27,976	×	35,500
1-4-3	地域の課題を解決するための体制づくり	地域における社会資源の数	個	284	368	845	○	382
1-4-4	介護保険制度の安定的な運営	ケアプラン点検実施事業所数	箇所	4	5	5	○	5

### 節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
- 老人福祉センター(4荘)・老人憩の家(8荘)では、介護予防に資する健康体操教室や作品の展示会などを敬老週間に実施するなど利用者の増加に努めた。とみおか荘及びところ荘では空調改修工事を行った。
  - 新型コロナウイルス感染症の流行以降、通いの場の減少が続いているが、地域のリハビリ専門職と協働し、ところ元気百歳体操のサポーターである「トコフィット」を養成するなどして、この体操の普及活動を支援した。
  - 認知症サポーター養成講座では、小学校3校、中学校3校などで47回開催し1,822人が受講した。
  - 認知症地域支援推進員を中心に「オレンジウィーク」を開催し、「地域でまもり支え合い事業(ところ元気おかせりQR)」の体験会や、「おかせりQRのPRソングリサイクル」などにより普及啓発に努めた。
  - 生活支援体制整備事業では、高齢者の情報格差解消のためのスマホ教室の開催やスマホサポーターの養成を行ったほか、地域の課題解決に寄与する団体等の立ち上げ支援・担い手の養成、地域関係者のネットワークの構築など地域づくりの活動を支援した。
  - 介護保険料滞納者に対しては訪問や電話・文書による催告を行うなど、介護保険制度の健全運営に向けて収納率の向上に努めた。
  - 介護給付適正化の取組として、ケアプラン点検や給付情報の縦覧点検等を実施した。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
- 地域で活動する元気な高齢者数(老人福祉センター・老人憩の家の利用者数)については、新型コロナウイルス感染症の流行以前に戻りつつあるが目標値を下回った。施設の認知度や実施している事業のニーズ・魅力などを分析する必要がある。
  - 介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者数については、新型コロナウイルス感染症の流行により活動を自粛した団体において高齢化や担い手不足等により再開が難しく、目標値を下回った。
  - 認知症サポーター養成者数については徐々に受講者数は増加してきているが、感染予防も引き続き必要であることから新型コロナウイルス感染症の流行前と同規模での開催ができず、目標値を下回った。

### 今後の方向性

- ◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
- 老人福祉センター(4荘)・老人憩の家(8荘)については、レクリエーション施設としてのみならず、高齢者の社会参加や交流の機会の場など、介護予防に寄与する施設としての機能を推進する。
  - 認知症に対する理解促進は高齢社会における大きな課題の一つであり、認知症サポーター養成講座をはじめ、引き続き重点的に施策を進める。
  - 生活支援体制整備事業では、地域の課題把握に努めて高齢者向けスマホ教室などを実施するとともに、民間の生活支援サービスの導入を促したい。
  - 介護保険制度の安定的運営に向け引き続き保険料の収納率向上に努めるとともに、ケアプラン点検等の給付適正化の取組を実施する。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
- 老人福祉センター・老人憩の家については、利用者数の増加に向けて、施設の利用時間区分や回数制限などの見直し、他市事例等を参考にした事業内容の改善に努める。
  - 介護予防に資する通いの場については、活動内容に悩む団体が多いことから、団体間で情報共有するための交流会などの場づくりを進めることなどにより活性化を促し、活動が継続できるよう支援する。
  - 認知症高齢者の増加が見込まれることから、引き続き認知症サポーター養成講座や認知症当事者による講演会等により正しい知識を普及啓発するなど、認知症施策事業を展開する。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		レ 10 人や国の不平等をなくそう
レ	2 飢餓をゼロに		レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.10	記入者職氏名	福祉部次長 畑中 武

第5節	生涯学習・社会教育	
-----	-----------	--

関係所属	社会教育課、所沢図書館	
------	-------------	--

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,282人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「生涯学習・社会教育」 所沢市が提供する学習機会（講座や体験活動等）は充実している	458	20.1%	354	15.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	生涯学習・社会教育に関する施策の満足度	%	-	24	20.1	×	25

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
1-5-1	市民の学びと学び合いの支援	行政各部署の生涯学習関連事業数	件	110	135	130	×	140
1-5-2	学びの成果の活用	生涯学習ボランティア人材バンクの登録件数	件	117	145	93	×	150
1-5-3	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育学級生数	人	3,003	現状値以上	2,763	×	現状値以上
1-5-4	公民館機能の充実	市民等と協働で企画実施した事業の割合	%	58.8	64	59.8	×	65
1-5-5	図書館機能の充実	図書館の蔵書数	冊・点	967,022	1,034,000	1,016,334	×	1,045,000
1-5-5	図書館機能の充実	レファレンス登録件数	件	1,217	1,367	761	×	1,394
1-5-6	読書活動の推進	子ども1人あたりの児童書数	冊・点	5.8	6.4	6.7	○	6.5

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
- 市の各部署での生涯学習に関連する取組を調査し、進捗状況の進行管理を行った。
  - ボランティア人材バンクに登録している講師の活動状況を確認し、状況把握に努めた。
  - 家庭における教育力向上のため家庭教育学級を小中学校に開設し、保護者の学習の場を設けるとともに自主的な学習を支援した。
  - 各公民館の事業は、コロナ禍前の実施数に戻り、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に講座を実施した。
  - 質の高い資料・情報源を収集するため、週1回選書に関する検討会議を開催し、様々な分野の資料選定を行った。
  - レファレンスについては、本館、分館で利用者への周知と登録件数を増やすよう働きかけ、職員のスキルアップに努めた。
- また、図書館ホームページにおいてレファレンス事例を公開するとともに、国立国会図書館レファレンス協同データベースへも積極的に掲載した。
- 第4次子どもの読書活動推進計画を策定した。子どもの読書活動推進に向けた取組については、子どもの読書活動推進連絡会を年3回開催し、学校等の情報の共有を図りながら、小学校3年生へのブックトーク、学校への団体貸出、各種行事などを実施した。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
- 評価指標については、新型コロナウイルス感染症による自粛の影響が残り、市民の学習活動が縮小していることもあり、未達成となった。
  - 各部署の生涯学習関連事業数は徐々にコロナ禍前の水準には達しつつあるものの目標値達成には至らなかった。
  - ボランティア人材バンクに登録している講師が転居や高齢化などの理由により登録を辞退したため目標値を下回った。
  - 家庭教育学級では、コロナ禍で規模が縮小された状況を引かずしていることや、就労している保護者が増加していることにより、目標値を下回った。
  - 目標値を達成している公民館もあれば、未達成の公民館もあり、それぞれの公民館の地域性や事業への取り組み方の違いにより目標値を下回った。
  - 収蔵スペースの限界もあり資料収集と共に資料の除籍も行う必要があり、蔵書数は目標値ほどには伸びていない。また資料の高騰も一因として考えられる。
  - レファレンス件数については、コロナ禍以降減少傾向にあり、R5年度は図書館の電算システム再構築事業のため、全館一斉に17日間の休館をしたことなどが影響し未達成になったものと考えられる。

<b>今後の方向性</b>			
<p>◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民が主体的に学び、学びの成果を地域で活用できるよう、人材バンクを含めた学習情報を提供していく。</li> <li>○家庭における教育力向上のため、今後も家庭教育学級を開設し、各学級で取り組みやすいよう保護者の学習活動を支援していく。</li> <li>○市民等と協働で企画実施する事業を行いながら、地域人材の育成につなげていく。</li> <li>○市民の課題解決に役立つ質の高い資料・情報源の収集・提供を継続し、情報拠点としての図書館機能の充実を図る。</li> <li>○図書館分館の運営状況について、安定した良質な運営が保たれるよう、定期的なモニタリングや会議等を実施していく。</li> </ul> <p>◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も公民館等における魅力的な講座の開催や、若い世代の参加を促していき、評価指標の達成を目指していく。</li> <li>○市の各部署に対し生涯学習関連事業の啓発や情報提供に努める。</li> <li>○人材バンク制度について生涯学習情報誌やSNSを活用するとともに「ボランティア人材バンクフェア」を開催する等周知に努める。</li> <li>○家庭教育学級が取り組みやすくなるよう、手続きを簡素化し、各学級の状況に応じた相談や情報提供を丁寧に行っていく。</li> <li>○各公民館で地域住民のニーズを捉え、今実施している事業の改革・改善を図りながら、魅力ある事業を展開していく。</li> <li>○蔵書数は収蔵スペースに限りがあることから、大きな増加は困難な状況にある。資料収集と共に除籍を行い、資料の鮮度を保ちながら蔵書数全体としては現状値を目標値とするなど指標の見直しを検討する。</li> <li>○収蔵スペースに限りがあることから、大きな増加は困難な状況にある。</li> <li>○レファレンスについては、図書館ホームページにおいてレファレンス事例を積極的に公開し、利用者への課題解決支援サービスの周知を図る。また、本館・分館で研修等を行うことで職員のスキルアップを図り、登録件数を増やすよう利用者増を目指していく。</li> </ul>			
<b>SDGsへの貢献</b>			
1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう	
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを	
3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任	
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を	
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう	
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に	
8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	
9 産業と技術革新の基盤を作ろう			
評価日	R6.6.30	記入者職氏名	教育総務部次長 池田 淳

第6節	危機管理・防災							
関係所属	危機管理室							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「危機管理・防災」 所沢市の防災対策に満足している			552	24.2%	689	30.2%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	総合防災訓練の参加者数		人	31,100	34,100	36,355	○	34,600
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
1-6-1	地域防災体制の強化	消防団員定員充足率	%	99.1	100	85.6	×	100
1-6-2	災害時初動体制の構築	ところざわほっとメール(防災カテゴリ)の利用登録者数	人	16,671	17,000	26,018	○	17,000
1-6-3	災害応急対策の充実	防災資機材の点検率	%	100	100	100	○	100
1-6-4	非常時の体制の強化	災害時応援協定の締結数	協定	68	86	94	○	89
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○「消防団」について市民フェスティバルでの入団促進キャンペーン、20歳のつどいの会場でのPR活動を実施、市民に広く周知を図ることが出来た。</p> <p>○「災害時初動体制の構築」について、地域防災計画の全面改訂とともに非常時優先業務(BCP)を見直し、実災害を見据えた非常時優先業務(BCP)マニュアルを作成することで実効性を高めた。</p> <p>○「災害時応援協定」について、福祉避難所、物流、帰宅困難者一時滞在施設に関する3件の協定を締結し災害対策の強化を図った。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○「消防団員定員充足率」について、少子高齢化の進行や地域活動に対する意識の低下に伴い減少傾向にあり、結果充足率の低下につながった。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○災害時に医療関係者との円滑な連携を構築するため、災害時応援協定を締結するとともに、医療関係者と連携し、医療救護活動マニュアル(行動計画)の策定を進める。</p> <p>○非常時に備えた訓練を実践的、多面的(総合防災訓練、帰宅困難者対策訓練、国民保護訓練)に実施し災害に備える。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○「消防団員入団促進」について、市内公共施設や店舗等へのポスター掲示を継続するとともに、より高い効果を得るため、入団が見込める若い世代が多く集まるイベントでのPR活動の実施を検討していく。</p>								
SDGsへの貢献								
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを					
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任					
4	質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を					
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう					
レ	6 安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう					
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう					
9	産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R6.6.7	記入者職氏名	危機管理室危機管理担当参事 森田 悟					

第7節	防犯・消費生活							
関係所属	防犯交通安全課、市民相談課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「防犯・消費生活」 所沢市は防犯や消費生活に関する情報提供や相談窓口が整備されている			388	17.0%	592	25.9%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	人口千人あたりの犯罪発生件数		件	8.1	6.6	5.6	○	6.3
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
1-7-1	防犯のまちづくりの推進	自主防犯団体組織数	団体	213	現状値 以上	221	○	現状値 以上
1-7-1	防犯のまちづくりの推進	「所沢市空き家等の適正管理に関する条例」等による適正管理を指導した空き家の改善・解決率	%	84.7	80	74.2	×	80
1-7-2	防犯体制の充実	ところざわほっとメール(防犯カテゴリ)の利用登録者数	人	14,386	14,500	23,476	○	14,500
1-7-3	健全な消費生活の推進	消費生活相談の解決率	%	98.6	100	94.6	×	100
1-7-4	消費者活動の支援	消費に関する講座・講演会の開催回数	回	11	14	10	×	15
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○青色回転灯装着車によるパトロールを 155回実施した。</li> <li>○平成23年度から始まったわんわんパトロール登録者数の累計が1,896名に達した。(令和4年度中の登録者数は1,817名)</li> <li>○防犯指導者養成講座を開催し42名が参加した。</li> <li>○消費生活相談件数は令和4年度が2,358件、令和5年度が2,286件と前年比で若干減少した。</li> <li>○消費者活動の支援として実施した消費生活に関する講座等は、申込み後のキャンセルなどで実施回数が目標値に届かなかった。</li> </ul> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○管理不全な空き家については、解決に至るまでに相当の期間を要する案件が例年に比べ増加したため、目標値を下回った。</li> <li>○消費生活相談については、相談者が市に情報提供しただけで処理不要の相談も増加したために解決率が下がった。</li> <li>○消費に関する講座・講演会の開催回数については、申込みがあった講座等のうち主催者側の事情により中止となったものが数件あったため目標値より下回った。</li> </ul>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○犯罪をおこさずにいまちづくりのため、自主防犯団体の登録、青色回転灯装着車によるパトロール、わんわんパトロールの推進を行う。</li> <li>○空き家等の適正管理について指導を行う。</li> <li>○防犯意識の高揚を図るため、警察署と連携し、毎月、ほっとメール等に啓発メッセージを掲載する。</li> <li>○消費生活相談のうち、高齢者からの相談が約4割をしめていることから、高齢者本人だけではなく、見守る方々への啓発活動を継続して行っていく。</li> <li>○高齢者だけではなく、若年者に対しても新たな手口による消費者被害が見込まれるため、啓発活動を強化していく。</li> </ul> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相談を受けた空き家を定期的に訪問し、現地を確認するとともに、適宜所有者に改善を促して、解決できるよう取り組んでいく。</li> <li>○消費者トラブルの最新情報を市のホームページ、広報、ほっとメールに掲載し、広く市民へ消費生活に関する啓発を行うため、消費生活展以外にも啓発する場を設けていく。</li> </ul>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		レ 10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		レ 11 住み続けられるまちづくりを
	3 すべての人に健康と福祉を		レ 12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.6.24	記入者職氏名	市民部次長 糟谷 苗美

第8節	交通安全							
関係所属	防犯交通安全課、道路維持課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「交通安全」 所沢市は交通事故防止に向けた取組が充実している			497	21.8%	616	27.0%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	交通事故(人身事故)発生件数(概数)		件	1,191	現状値 未満	762	○	現状値 未満
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
1-8-1	交通安全意識の向上	交通安全教室等の実施回数	回	141	149	126	×	150
1-8-2	放置自転車対策の推進	放置自転車台数	台	38	36	8	○	36
1-8-3	交通環境の整備	カーブミラー新規設置箇所	箇所	27	35	36	○	35
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○交通安全教室については、小学校や保育園、幼稚園からの依頼に基づき、内容を調整しながら実施した。令和4年度より12件増えた。</p> <p>○放置自転車対策については、駅周辺の自転車利用者に対し、市営・民営自転車駐車場及び店舗駐輪場を利用するよう指導・誘導を行った。また、公道上に放置された自転車には警告札を貼付し、移動されない場合は撤去し保管場所へ移送した。</p> <p>○カーブミラーの新規設置については、工事発注により目標値以上の基数を設置したほか、道路区画線の再標示等により通学路の安全対策に努めた。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○交通安全教室については、保育園など新たに実施したケースもあったが、一般向けが少なかつたため、実施回数が目標値までいかなかった。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○交通安全教室を希望する施設・団体に対し、すべて実施できるよう周知・調整をしていく。</p> <p>○今後も放置自転車が減少していくよう、駅周辺の自転車利用者に向けての啓発活動や自転車駐車場利用の周知活動をしていく。</p> <p>○良好な交通環境の確保のため、道路安全施設の整備を進める。特に、カーブミラーについては設置要望も多いことから計画的に整備を進めていく。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○小学校や保育園、幼稚園に対し、実施を促すとともに交通安全教室を実施したことがない保育園や認定こども園にも案内を送付し、実施を促す。</p>								
SDGsへの貢献								
1 貧困をなくそう			10 人や国の不平等をなくそう					
2 飢餓をゼロに			11 住み続けられるまちづくりを					
3 すべての人に健康と福祉を			12 つくる責任 つかう責任					
4 質の高い教育をみんなに			13 気候変動に具体的な対策を					
5 ジェンダー平等を実現しよう			14 海の豊かさを守ろう					
6 安全な水とトイレを世界中に			15 陸の豊かさを守ろう					
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに			16 平和と公平をすべての人に					
8 働きがいも経済成長も			17 パートナーシップで目標を達成しよう					
9 産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	R6.6.24	記入者職氏名	市民部次長 糟谷 苗美 建設部次長 吉田 進一					